

第1回全体会議議事録

日時:平成19年6月12日(火)

場所:名古屋大学医学部鶴友会館

出席者: 主任研究者(浜島信之)、田島和雄、三上春夫、徳留信寛、上島弘嗣、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、平木章夫、鈴木勇史、川戸美由紀、小笹晃太郎、繁田正子、三谷智子、尾崎悦子、松井大輔、鈴木貞夫、上村浩一、日吉峰麗、武田英雄、新村英二、中村昭彦、鈴木妃佐子、池田佳名子、増井徹、織井優佳、中央事務局(若井建志、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、岡田理恵子、森田えみ、増井香織、服部秀美) 計37名

○論文作成について

・中央事務局に集められたデータ・検体を用いた研究の論文共著者について、主任研究者より、論文作成チーム3名、データ・検体を提供したコーホート研究実施グループ各1名、中央事務局1名としてはどうかとの提案があった。これに対し、主任研究者は J-MICC 研究創設に努力していること、責任を明確にする意味もあることなどから、必ず共著者に入れるべきとの意見が多く出された。これらの意見について、再度検討の上、主任研究者が共著者決定方法の案を提案することとなった。また中央に集められ生体試料の測定費用に関しては、中央事務局で支出することとした。

○データクリーニングについて

・データクリーニング用のプログラムが完成し、近々配布予定であることが中央事務局より報告された。また中央事務局より、データクリーニングに関して、調査票原票などに戻っても訂正できない不合理なデータはそのまま中央事務局に提出するという改訂案が提案された。これに対し議論の結果、以下のように決定した。1) 中央事務局案は撤回し、調査票原票などに戻っても訂正できない不合理なデータも各コーホート研究実施グループで修正する。2) 不合理なデータの修正については、中央事務局からコーホート研究実施グループに配布の事案集にのっとり修正する。それ以外は対処方法を対処前に中央事務局へ報告し、その情報を全コーホート研究実施グループで共有する。

○コントロール検体、生体試料送付について

・中央事務局より、コントロール検体の採取・保管状況、生体試料の中央事務局への送付の際の注意について説明があった。

○各コーホート研究実施グループの調査進捗状況について

・調査進捗状況について、ベースライン調査実施中の8グループ(愛知県がんセンター、鹿児島大学、佐賀大学、京都府立医科大学、滋賀医科大学、名古屋市立大学、名古屋大学、千葉県がんセンター)、J-MICC 連合参加予定の1グループ(九州大学)、今後ベースライン調査開始予定の1グループ(徳島大学)より報告があった。